

民間スポーツクラブに通う中・高校生の生活時間について

○阿部 純士（東海大学大学院生） 西野 仁（東海大学）

I、はじめに

1997年中央教育審議会は、一人一人の能力・適性に応じた教育を実現する上で、それまでのような与えられた教材や機会を単に受け入れるのではなく、主体的に行動することが必要であるという主旨を第二次答申に盛り込んだ。¹⁾ また、2000年9月にスポーツ振興基本計画が文部省（現文部科学省）によって策定され、10年間で全国の各市町村に最低1つの総合型地域スポーツクラブの育成を全国展開するという目標が掲げられた。²⁾

こうした社会状況の変化に伴い、中学生・高校生のスポーツは、それまでの学校教育の一環である部活動一辺倒から、民間スポーツクラブ、あるいは総合型地域スポーツクラブなどを含めたより広い範囲へと、機会・空間が急速に拡大しつつある。このことは、それまでの学校と家庭・地域という単純な図式に、学校の部活動とは異なるスポーツクラブという別の機会・空間が加わったことになり、その結果、中・高校生の日常生活経験は、活動内容も、行動範囲も、仲間関係も変化してきていると容易に想像される。どのような変化が起きつつあるかを明らかにするためには、単純に民間・地域スポーツクラブに通い始める前と通い出した後を、時系列を追って比較することが論理的に妥当である。他には、通っている人の群と、通っていない人の群を比較することでも可能である。しかし、いずれの方法でも、まずは、それらのクラブに通っている生徒が、どのような日常生活を送っているかを把握することからスタートすべきである。本発表は、そのスタート部分として行った民間スポーツクラブに通う中学生・高校生の生活時間調査の結果をまとめたものである。

II、研究の目的と方法

1、研究の目的

民間スポーツクラブに所属する中・高校生は、どのような日常生活を送っているかを明らかにすること。

2、研究の方法

民間スポーツクラブに通っている中・高校生を対象に、アンケート調査と生活時間調査によりデータを収集し、特徴を記述する。

1) アンケート調査

アンケートは、調査対象者の属性を明らかにするために、「学年・年齢」の他に、「クラブ活動について」「学校の活動について」「クラブ・学校以外の活動について」質問した。

2) 生活時間調査

国際比較調査で使用されたザライ方式を基に原らによって設計された調査票（原式）を参考に鑑・高橋・西田らによって構成された調査票を使用した。記入内容は、「いつ」「どこで」「誰と」「何を」「自由・義務」「2次的行動」とし、5分以上継続して行った活動を1日24時間の行動票に記入してもらった。

III、調査の実際

1、対象と調査期間

対象は、サッカーを中心に活動している神奈川県都市部にあるKスポーツクラブに所属し、現在練習に通っている中学生・高校生とした。Kスポーツクラブには2006年6月現在、男子中学生が21名、男子高校生が25名所属しているが（女子はいない）、休部状態の生徒もあり、9月の調査時点では、中学生20名、高校生20名が通っていた。それらの合計40名全員にアンケート及び生活時間調査を実施した。しかし、実際に調査に協力してくれた生徒は、中学生18名（90%）、高校生12

名（60％）であった。アンケート調査からは、学校の部活動にも参加している生徒は中学生が6名（33.3％）で、高校生は一人もいなかった。塾に通っている中学生は7名（38.9％）で、高校生は4名（33.3％）であった。高校生の中で1名のみがアルバイトをしていた。

調査期間は、中学生は2006年9月14日（木）から20日（水）まで、高校生は16日（土）から22日（金）までの連続した7日間であった。この期間中に、中学生は、14日（木）、17日（日）、19日（火）が、高校生は16日（土）、19日（火）、21日（木）が練習日であった。

2、集計と分析

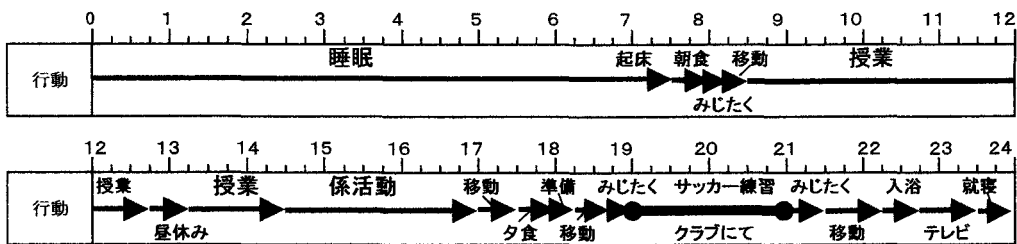
統計的な分析にはデータ数が十分ではないと判断し、生活時間調査を基に、クラブの活動がある平日とない平日、クラブの活動のある休日とない休日を比較した。

IV、結果

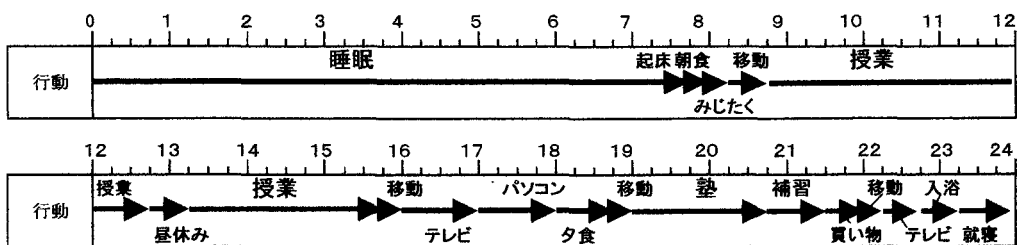
（1目盛りは、15分。●—● スポーツクラブでの活動時間、→ その他の活動時間）

1、中学生A君の一日：中学2年生14歳。Kクラブ所属歴6年。学校の文化部活動にも所属している。塾に通っている

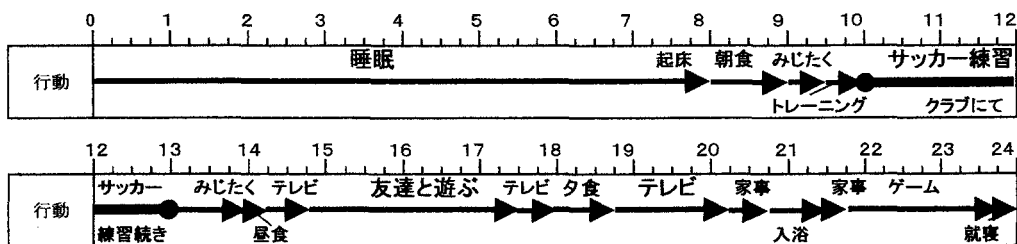
1) スポーツクラブ活動日の平日：9月19日（火）



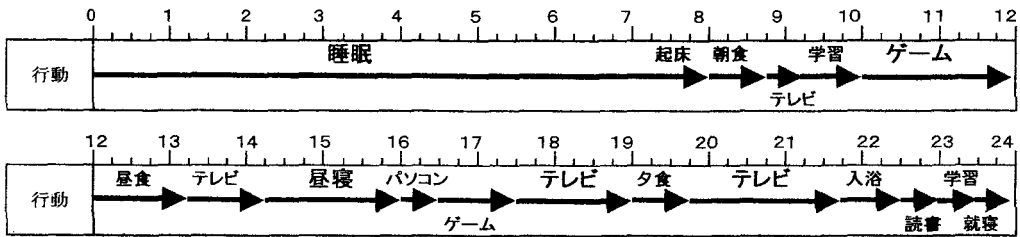
2) スポーツクラブ非活動日の平日：9月20日（水）



3) スポーツクラブ活動日の休日：9月17日（日）

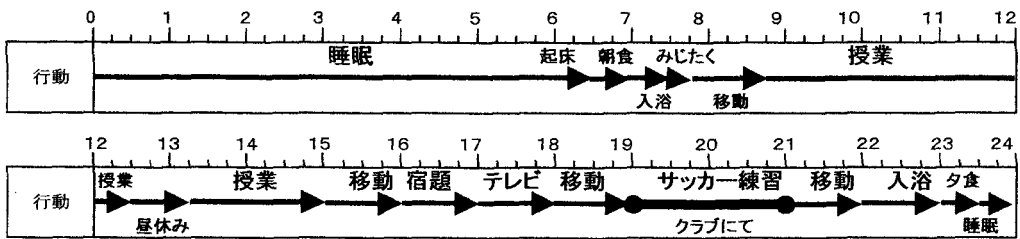


4) スポーツクラブ非活動日の休日：9月18日（月、敬老の日のため休日）

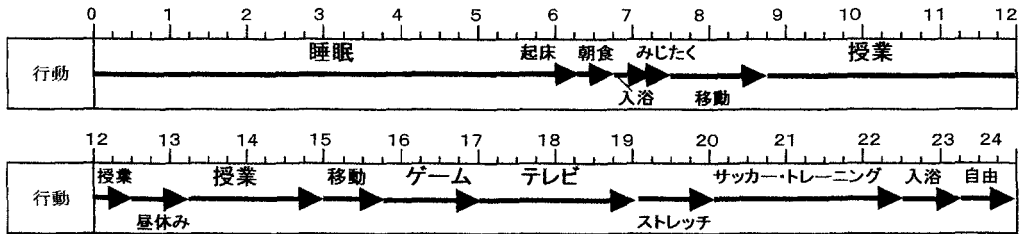


2、高校生B君の一日：高校1年生15歳。Kクラブ所属歴1年。学校の部活には所属していない。塾に通っていない。バイトはしていない。

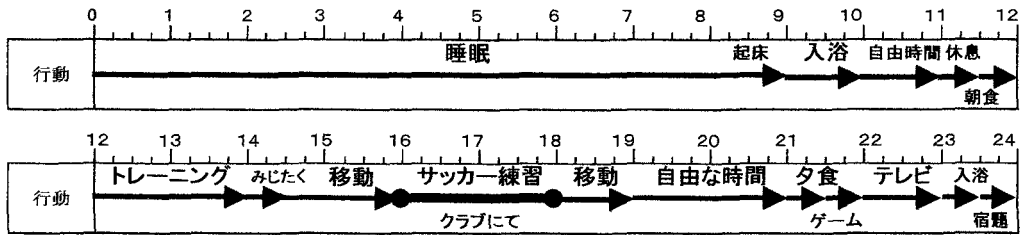
1) スポーツクラブ活動日の平日：9月21日（木）



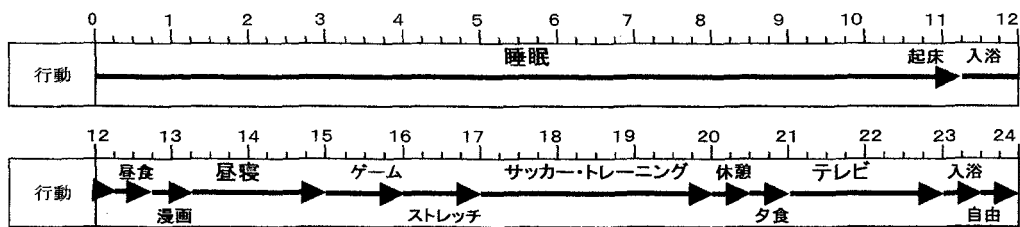
2) スポーツクラブ非活動日の平日：9月20日（水）



3) スポーツクラブ活動日の休日：9月16日（土）



4) スポーツクラブ非活動日の休日：9月18日（月、敬老の日のため休日）



V、考察

中学生A君の平日の生活は、スポーツクラブ活動が週2回と塾が週3回あり、平日は5日間ともきまった活動がある。スポーツクラブの活動は、19時から21時であるが、準備や身支度、移動に活動の前後1時間が費やされ、自由な時間は睡眠前30分余りのテレビの視聴のみであった。スポーツクラブの無い日には塾に行く。帰宅時刻はいずれの日も22時を越えるが、クラブの無い日には、身支度や移動が少ない分、テレビ、パソコン、買い物などに費やす余裕が若干伺える。

A君のスポーツクラブ活動がある休日は、やや、遅めに起床し、朝食後、まもなく、練習にでかける。しかし、午後2時には帰宅し昼食後、友人と遊び、テレビやゲームに費やす。スポーツクラブのない休日は、やはり、遅めに起床し、ゲームとテレビが大半で、途中1時間半程度の昼寝をしている。朝と夜に勉強をするが、多くはない。

A君のデータが示すように、塾とスポーツクラブの活動が夜間に行わざるを得ないことから、平日は極端に忙しく、休日は、それを解消するためか、極端にリラックスする様子が伺える。

高校生B君の平日の生活は、スポーツクラブがある日はもちろん、無い日も、ストレッチや、サッカーのためのトレーニングを行っている。ゲームやテレビの視聴はあるものの自主的な学習はほとんど見当たらない。

B君のスポーツクラブがある休日は、平日の6時起床からは遅い9時に起床し、入浴や休息の後、遅い朝食（昼食）をすませ、トレーニングの後、練習に出かける。その後、自由な時間を過ごした後、ゲームやテレビ視聴をし、就寝直前に宿題をしている。スポーツクラブのない日の休日は、朝11時過ぎによりやく起床し、昼食後、また昼寝をする。それから、ゲームをした後、ストレッチを1時間ほど行い、3時間ほどサッカーのトレーニングを行う。夕食後、テレビを2時間ほど視聴する。

B君は、平日、休日ともに、スポーツクラブの活動があろうとなかろうと、生活の中心がサッカーにあることが伺える。休日は、しっかりと休養し、自主的な学習活動、読書、趣味活動などに費やす時間がほとんどない。

忙しい中学生のA君と、サッカー筋の高校生B君の生活ぶりは、スポーツクラブに通う青少年にとって特殊なケースではないだろうと推測する。青少年が全人格的に発達することを望む立場からは、こうした生活ぶりは、マイナスの影響を及ぼしはしないだろうかと懸念する。今後、さらにデータ収集を重ね、実態をより明確にして行きたい。

参考文献

- 1) 中央教育審議会, 1997, 「中央教育審議会第二次答申の概要」
- 2) 文部省, 2000, 「スポーツ振興基本計画」